

# ふるさとの 植物を守ろう

## 植物園と市民で進める 植物多様性保全ニュース

Japan Association of Botanical Gardens  
社団法人日本植物園協会

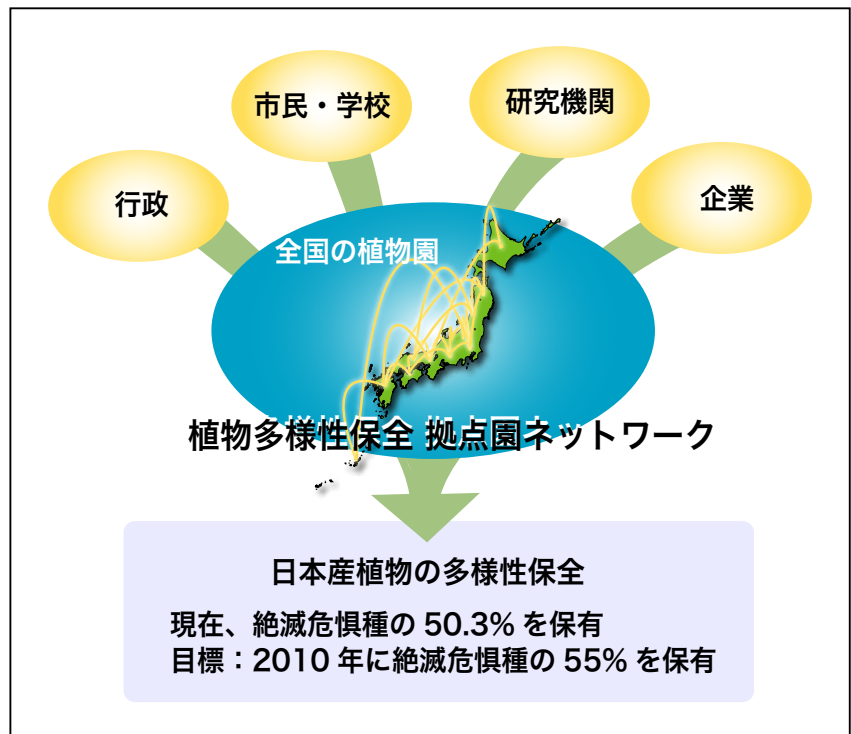
### 保全ネットワークづくりを目指して 植物多様性保全拠点園の役割

植物多様性保全委員会  
新潟県立植物園 倉重祐二

日本に自生する約7,000種の維管束植物（種子植物・シダ植物）のうち、1,690種もの植物が環境省レッドリストで絶滅危惧植物にあげられています。この数字に含まれない、すでに絶滅した植物も41種あり、また準絶滅危惧種が255種、情報不足が32種と何らかのかたちで、保全が必要である種は2,000を超えています。

このような厳しい状況に鑑み、日本植物園協会では、日本産の絶滅危惧植物の55%（930種）を日本の植物園において保有する、そして、45%については自生地情報の明確な個体を保有するという「2010年目標」を設定しました。植物多様性保全委員会では、これを実現するために全国の植物園が市民団体・行政・研究機関等と連携して効率的に保全を進めるために、2006年に「植物多様性保全拠点園ネットワーク」を組織しました。

2007年の絶滅危惧植物の保有調査では、植物園協会に加盟する112園において849種、絶滅危惧種の50.3%が保全されていることが明らかになりました。このことから2010年目標の達成には、あと81種を収集しなければなりません。



#### 植物多様性保全拠点園ネットワークとは

##### 拠点園のカテゴリー

##### ■地域野生植物保全拠点園■

気候や地域で全国を10のエリアに分けた、各地に保全の拠点となる植物園。地域の絶滅危惧植物の収集、保存を推進する。

##### ■特定植物保全拠点園■

各植物園の得意とする植物等（例：ラン科、ツツジ科、水生植物）を集中的に保全する。

##### ■種子保存拠点園■

絶滅危惧植物の種子を保存する。

拠点園ネットワークの活動

1. 保全の優先順位の明確化

何を優先して集めるかを明確にすることで、効率的に保全を進めることができます。現在、植物園協会では環境省のレッドデータであげられている絶滅危惧種を保全の対象とし、その危急度や植物園での保有個体数を考慮して独自に優先順位を定めています。

2. 保全技術の向上

絶滅危惧植物の保全では、自生地での採集方法や産地や生育環境等の記録が非常に重要です。植物園協会では、環境省の絶滅危惧植物の種子の収集・保存、植物の系統保存に関するマニュアル作成に協力し、これをもとに全国各地で市民を交えた技術講習会を開催し、保全技術の向上に努めています。

3. ネットワーク形成

2010年目標に向け、植物園だけで目標を達成することは、さまざまな面から難しい状況です。日本では市民主体の植物研究・保全団体が地域植物相の解明、レッドリスト等で大きな成果をあげてきました。これらの市民団体と植物園が緊密に連携して保全を進めるために、アンケートによる保全団体情報の収集、市民との協働による保全に関するシンポジウムやワークショップなどを開催しています。

4. 絶滅危惧植物の種子収集と保存

各地域の植物園と植物研究・保全団体が協働して実際に自生地での種子等の採集を行っています。これまでに種子の収集を北陸、関東、関西、四国、九州エリアで実施し、大きな成果を得ています。収集された種子や採集に関するデータは、種子保存拠点園である新宿御苑で保存されています。

5. 普及・啓発

保全を進めるためには、市民の理解を得ることも重要です。植物園協会では、市民団体等の協力を得て、絶滅危惧植物や生物多様性保全に関する企画展を各地の植物園で開催しています。また、「ふるさとの植物を守ろう～植物園と市民で進める絶滅危惧植物の保全」パンフレットを発行しました。

以上のように、日本植物園協会では、絶滅危惧植物の保全を市民と共に進めるべく、「植物保全ネットワークづくり」を目指しています。今後、このニュースレター等で情報を提供いたしますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

■地域野生植物保全拠点園

- 北海道 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園  
銀河庭園（株式会社アレフ）
- 東北 東北大学植物園
- 北陸 新潟県立植物園  
富山県中央植物園
- 関東 国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園  
国立科学博物館筑波実験植物園  
環境省新宿御苑  
東京大学大学院理学系研究科附属植物園  
東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園  
東京都神代植物公園
- 東海 名古屋市東山植物園
- 近畿 大阪市立大学理学部附属植物園  
六甲高山植物園  
京都府立植物園
- 中国 広島市植物公園
- 四国 高知県立牧野植物園
- 九州 熊本大学薬用植物園  
福岡市植物園  
佐世保市亜熱帯動植物園
- 沖縄 国営沖縄記念公園熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

■種子保存拠点園

- 環境省新宿御苑

■特定植物保全拠点園

- 北海道大学植物園 高山植物
- 東北大学植物園 ヤナギ科
- 新潟県立植物園 ツツジ属、水生植物
- 富山県中央植物園  
高山植物、サクラ属、キク属とその近縁属、水生植物
- 国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園 ムラサキ
- 国立科学博物館筑波実験植物園  
シダ植物、ラン科、ソテツ目、水生植物
- 環境省新宿御苑 ラン科、ハナシノブ
- 東京大学植物園日光分園 テンナンショウ属
- 北里大学薬学部附属薬用植物園 薬用植物
- 安城産業文化公園デンパーク  
サルビア属、ガマズミ属、ヒイラギナンテン属
- 武田薬品工業株京都薬用植物園 薬用植物
- 草津市立水生植物公園みずの森 水生植物
- 咲くやこの花館  
マダガスカル産、中国高山産、フヨウ属、サクラソウ属
- 摂南大学薬学部附属薬用植物園  
ウマノスズクサ科、サトイモ科、モクレン科
- 京都府立植物園 ラン科、カンアオイ属
- 広島市植物公園 ラン科
- 高知県立牧野植物園  
ラン科、ツツジ属、キク科、蛇紋岩植物、石灰岩植物
- 国営沖縄記念公園熱帯・亜熱帯都市緑化植物園  
ラン科、キバナノヒメユリ、リュウキュウベンケイ

◆報告◆

絶滅危惧植物の展示（大阪）

大阪市立大学理学部附属植物園と摂南大学薬学部附属薬用植物園は、北河内自然愛好会と協力して絶滅危惧植物の収集保全活動を進めています。地域の市民に向けて「植物園と市民で進める絶滅危惧植物の保全活動」を紹介する機会を得て、活動に携わったメンバーが2会場で絶滅危惧植物の展示・解説を行いました。

名称：第21回枚方市健康福祉フェスティバル

会期：平成21年10月25日（日）

場所：ラ・ポールひらかた（大阪府枚方市新町）

27種類の絶滅危惧植物（野生絶滅・絶滅危惧IA・絶滅危惧IB・絶滅危惧II・準絶滅危惧・近畿地方絶滅危惧）の生きた植物の鉢植え（23種）と写真パネル（4種）を展示し、来場した人たちに絶滅危惧植物の自生地状況やそれぞれの植物の特性、保全の重要性などを説明、質問に答えました。

来場者は800人ほどで、アンケートでは興味を持つ

た絶滅危惧植物を記入してもらいました。展示した全ての種類が、興味ある植物としてリストアップされたところから、市民の関心も多岐に渡っていると思われれます。また、絶滅危惧植物を実際に見ることが出来てよかったという意見などもありました。

名称：摂南大学交野セミナー（第33回交野市文化祭）

会期：平成21年11月1日（日）～11月3日（火）

場所：交野市立青年の家（大阪府交野市私部）

交野市会場では、26種類の絶滅危惧植物について、鉢植え（21種）と写真パネル（5種）を展示しました。枚方市での展示と同様に、実際に絶滅危惧種の自生状態を知っている活動メンバーの解説は説得力があります。

来場者からは、絶滅する原因についての質問が多くあり、植物の種類によって異なる要因で絶滅の危機に瀕することを説明しました。熱心に話を聞いてくれた方の中には、昔はよく見かけた植物が絶滅危惧植物になっているのにびっくりしたと話す人も多く、期間中の来場者は約1,000人でした。絶滅危惧植物に対する市民の関心の強さを感じました。

【報告：摂南大学薬学部附属薬用植物園 邑田裕子】



枚方市の会場。活動メンバーが一人一人の質問に丁寧に解説する



交野市会場での展示風景。実際に「絶滅危惧植物」を見ることができてよかったという意見が両会場ともに多かった

植物保全活動は、地域の市民の理解なしにはなかなかうまく進みません。今回は、他の展示が目的の来場者にも「絶滅のおそれのある植物」が身近にあることを知る良い機会となりました。今後もこうした機会に、植物の危機に関する展示や活動紹介を行い、普及啓発とともにゆるやかなネットワークづくりに努めていきたいと思ひます。

## ◆お知らせ◆

### 埼玉の植物多様性を守るつどい

日本植物園協会では日本の絶滅危惧植物の包括的な保全に向けて取り組んでおり、関東地域の植物園は、埼玉県秩父地方の絶滅危惧植物の種子等収集に重点を置いた保全活動を協力して行っています。この取り組みをいっそう推進するには、植物園だけでなく、行政、企業、市民等の関係者と連携・協働することが不可欠です。本企画では、絶滅危惧植物や保全活動の現状について情報を共有し、意見交換を行って今後に役立てるとともに、保全に関するゆるやかなネットワーク作りを目指します。

期日／2010年3月6日(土) 13:00～17:00

会場／大宮ソニックシティ 4F 国際会議室(大宮駅西口)

主催／社団法人日本植物園協会

企画運営／植物多様性保全拠点園 関東拠点園

- ・東京大学大学院理学系研究科附属植物園[小石川、日光]
- ・環境省新宿御苑
- ・国立科学博物館筑波実験植物園
- ・東京都神代植物公園
- ・国営武蔵丘陵森林公園 都市緑化植物園
- ・北里大学薬学部附属薬用植物園

後援／埼玉県

連携協力／生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

対象／一般市民

会費／無料

プログラム(予定)

<植物多様性保全に向けての取り組み 13:00～>

<埼玉県の植物多様性の現状報告 14:30～>

<質疑応答・意見交換>

※詳細は、植物園協会事務局にお尋ねください。

### 頒布書籍のご紹介

#### 『日本の植物園における生物多様性保全』

日本、そして地球の生物多様性を守る取り組みのなか、植物園の役割はたいへん重要です。しかし、なぜそれに貢献するのか、これまでどのような活動を行ってきたか、未来に向けてどんな目標を立てるべきかなど、植物園の視点から紹介された日本語による書籍はありませんでした。



日本植物園協会、国立科学博物館筑波実験植物園、植物園自然保護国際機構(BGCI)が2007年に共同で刊行した『日本の植物園における生物多様性保全』は、わが国の植物園における生物多様性保全に関する実績を紹介し、また植物園での保全事業に役立つ情報を取りまとめた、植物保全にかかわる多くの方々に活用いただける実践的な書籍です。

生物多様性保全や植物園活動に関心をお持ちのさまざまな立場の皆さまにとって必携の本書を部数限定で頒布(定価 ¥4,000)しております。頒布方法については、日本植物園協会ホームページ「出版物のご案内」にもご紹介しております。

なお、本書は一般書店で取り扱っておりません。

■申込方法■ 日本植物園協会事務局宛に、氏名・送付先・電話番号・必要部数をEメール、ファクシミリでお知らせください。見積書等が必要な場合はその旨もご連絡ください。申込みを確認後、2週間以内に発送いたします。

※同封の申し込み用紙は割引頒布(¥3,500)のご案内です。ご活用いただけると幸いです。

No.2の発行が遅くなってしまいました。今号は植物園協会での活動紹介記事ばかりになってしまいましたが、このニュースレターは、各地の諸団体の取り組みも取り上げ、植物とその保全に関する情報交換の場の一つとなることを目指しております。掲載内容へのご意見、共有したい情報等を、右記の協会事務局宛にお寄せください。よろしく申し上げます。



編集・発行 社団法人日本植物園協会

〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11-201

TEL: 03-5685-1431 FAX: 03-5685-1453

URL: <http://syokubutsuen-kyokai.jp/>

E-mail: [seed@syokubutsuen-kyokai.jp](mailto:seed@syokubutsuen-kyokai.jp)